

◎景気ウォッチャー調査[2022年6月]

2022年6月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を3.6ポイント下回る48.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「ウクライナ問題、石油供給不足、サプライチェーンの崩壊を受け、諸物価が上昇していることから、消費者の節約意識が高まり、売上低迷につながっている。」(一般小売店)、「新車の納期が半年以上掛かるなど先が見えない状況で、客の給料も減少しているようであり、景気は悪くなっている。」(乗用車販売店)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.6ポイント下回る47.8となった。

企業動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響を受けながらも生産計画を維持している。」(一般機械器具製造業)の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を2.8ポイント上回る46.2となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新卒採用市場は前年より若干良くなっており、中途採用市場も求人数や掲載企業数が6月頃より伸びており、ほぼ新型コロナウイルス発生前に戻りつつある。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、就業状況が回復してきている。中途採用の活動実施率も中四国は43.2%と全国的にも高い。」(求人情報誌製作会社)の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.5ポイント上回る60.3となった。

	6月	5月	前月差
合計	48.8	52.4	-3.6
家計動向関連	47.8	54.4	-6.6
企業動向関連	46.2	43.4	2.8
雇用関連 (参考値)	60.3	57.8	2.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を2.9ポイント下回る49.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「この半年間、景気は改善傾向にない。夏のエアコン需要がなくなれば家電販売はかなり低迷する。」(家電量販店)、「客の低価格志向が進めば、消費の動きが鈍化し、景気はなかなか回復しない。」(設計事務所)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る50.0となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「燃料や工業薬品の値上がりが続くため、収益は一段と厳しくなる。」(非鉄金属製造業)、「ロシアのウクライナ侵攻が長期化する懸念があるため、景気はやや悪くなる。」(木材木製品製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント下回る45.5となった。

雇用関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「飲食サービス業のうち仕出業では小規模な予約ばかりで、新型コロナウイルス発生前には戻らない。また、食材費、ガソリン価格、電気料金の高騰が予想を超えているものの、商品価格に転嫁できず、多くの業種で先行き不透明感が増していることから、景気はやや悪くなる。」(職業安定所)の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.0ポイント下回る54.4となった。

	6月	5月	前月差
合計	49.5	52.4	-2.9
家計動向関連	50.0	52.9	-2.9
企業動向関連	45.5	47.8	-2.3
雇用関連 (参考値)	54.4	59.4	-5.0